

京極読書新聞 <第70号>

発行日 平成27年 8月1日(土)
京極町生涯学習センター湧学館

京中生に インタビュー 2015

第3回

涼しい北海道の夏は、
読書に最適！<編集部>

渡辺 愛海さん(3年) 「100回泣くこと」 佐々木 琳加さん(3年) 「億男」

——「100回泣くこと」で京中生インタビューをするのはこれで2回めです。

渡辺 私は最初映画で観て、それがよかったので本を手に取りました。本の方も感動しました。

——なるほど。前回のインタビューの時は、ちょうど宮崎駿アニメの「風立ちぬ」が公開されたばかりの頃だったので、この「100回泣くこと」と堀辰雄「風立ちぬ」と、もう一冊「私の頭の中の消しゴム」の3冊でインタビューを行いました。共通項は「目の前で私の最愛の人が消えて行く…」ですね。

渡辺 本の中の、がん治療で苦しんでいる彼女を見ている「僕」の姿に感情移入することが多かったです。「僕」の立場だったら、私には何ができるのか考えました。何もできないのかもしれない。だからこそ、苦しんでいる人のためになれる強い心を持ちたいと思いました。

——「風立ちぬ」のように、「僕の心の中に生きている」という終わり方もあると思います。

渡辺 とても記憶に残る彼女の言葉がありました。入院治療している時に、欲しいものは何…という問いに、彼女は「健康」と答えるのです。健康で過ごせているのが

普通だと思っていた私には驚くような言葉でした。

——それって、「億男」の「生きるための欲」ですね。

佐々木 「億男」の主人公・一男は、昼は図書館勤め、夜はパン工場のアルバイトにあげられる男です。夜逃げしていった弟のつくった三千万の借金の肩代わりをして地味な独り暮らしをしています。(妻や娘とは別居) そんな男が、なんと三億円の宝くじに当たってしまう。

——三億円という大金の出現によって、一男の人生が大波乱。

佐々木 言いようのない不安に襲われた一男は、かつて大学で親友だった九十九(つくも)に会いに行きます。すると、三億円の買ったカバンと九十九が一男の前から消えてしまう。その日から、「お金と幸せの答え」を求めて九十九を探す波瀾万丈の一男の旅がはじまる…という話なのですが。

▼2ページ目へ続きます

京極読書新聞は
毎月1日発行です。





渡辺 愛海さん
「100回泣くこと」
中村航／著
(小学館, 2005)

佐々木 琳加さん
「億男」
川村元気／著
(マガジンハウス, 2014)

——「生きるための欲」は、その旅の結論です。

佐々木 なぜ、一男は、初めに大金持ちの九十九に会いに行ったのか考えました。借金の返済のためにあくせく働いていたのだから、さっさと借金を返済して楽になればいいのに…と思います。でも、それができなかったのは、おそらく一男は怖かったのだと思います。借金を返してしまったなら、その後、自分は何のために生きるのかが分からなくなってしまうことが怖かったのではないのでしょうか。

——病気になって、はじめて「健康」であることの意味に目覚める。大金を手にした、はじめて「幸せ」の意味に目覚める。考えさせられますね。ところで、最近読んだ本で、おもしろい本はありましたか。

渡辺 山田悠介さんの本が好きでよく読むのですが、「名のないシシャ」は難しかったです。

佐々木 「億男」の川村元気さんの本には、もう一冊「世界から猫が消えたなら」という本もあって、これも私のお気に入りです。



笹浪 竜くん(2年) 「清須会議」 小出 琉斗くん(3年) 「貴族と奴隸」

——「清須会議」は何で知ったのですか？

笹浪 家にあった本です。読んでみたらおもしろかったので、これで読書感想文を書こうと思いました。

——映画が先じゃなかったんですね。

笹浪 映画も観ました。本も映画も、それぞれ見どころがちがっていて、どちらもおもしろく楽しめます。

——「貴族と奴隸」を選んだのは？

小出 本屋に行って、書架に立てかけてあった表紙が気に入って、これを選びました。

——毎年、「京中生インタビュー」用に、入賞した作品は全部事前に目を通すようにしているのですが、今年度は、この「貴族と奴隸」が最も読むのがつらかったです。ケータイ小説が中高生に大流行した頃、読書感想文にもケータイ小説があふれかえったこともあります。なにかあの頃を思い出すような読みづらさでした。

小出 ？

——たぶん、作者の山田悠介が考えている「貴族」や「奴隸」イメージが、大人にしてはひどく幼稚なせいだと思いますけど。

小出 この本を読んで最初に感じたことは、主人公・黒澤伸也のすごさです。生まれつき「全盲」という障害を持っているのに、その「目が見えない」現実を受け入れて、視覚以外の五感、特に触覚を発達させているところ。包丁が使えるたり、さわるだけで絵の具の色がわかるようになって絵が描けたりする姿が魅力的です。

——なるほど。この「貴族と奴隸」と同じような状況設定を使った小説・映画に「バトル・ロワイアル」という名作があるんですが、聞いたことがありますか？

小出 いいえ。知りません。

——もう20年くらい昔の本だからね。ところ

▼4ページ目へ続きます



小出 琉斗くん
「貴族と奴隸」
山田悠介／著
(文芸社、2013)

笹浪 竜くん
「清須会議」
三谷幸喜／著
(幻冬舎、2012)

で、笹浪くんは、「清須会議」のどういったところがおもしろかったですか。

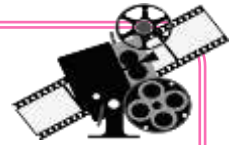
笹浪 やはり、清須城での羽柴秀吉と柴田勝家の心理戦がおもしろかったです。そして、それとは別に、秀吉の天下統一に向けた戦略が、織田信長が本能寺で死んだ時から動き出していて、その流れの中で「清須会議」の四日間もあり、最終目的に向かって、うそをついてでも人をあざむいてでも行動して行く秀吉の姿がすごいと思いました。

——秀吉や勝家という誰でも知ってるキャラクターを使って、現代の人間を描いているようなところがありますね。さて、ここ何年間かの大きな疑問、なぜ山田悠介は中高生に人気があるのかは今年もわからないままですが時間が来てしまいました。小出くんは山田悠介以外に読む作家っていますか？

小出 金沢伸明さんの本は読みます。山田悠介さんを、よりホラーっぽくした感じです。

——ああ、「王様ゲーム」。あれも、ここ何年間かの宿題なんです。

8/1(土)~16(日)



時間：午前10時30分より

会場：湧学館1階展示コーナー

*京極いろいろ上映会

…水・木・土・日(全10回)

*国策紙芝居実演

…火・金(全4回)



湧学館1階の特設コーナーに、テレビや椅子数脚をご用意しています。出入りも自由なので、途中まででも途中からでも、お気軽にご覧ください。

上映会は「京極発電所建設工事記録」や「平成4年しゃっこいまつりレポート」など、国策紙芝居は「空の軍神(前篇・後篇)」や「モモタロウサン」など、詳しい作品タイトル・日程につきましては、チラシ等でご確認ください。

インタビューで取り上げられた本は湧学館で読むことができます。「京極読書新聞」とあわせてお楽しみください。



発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

